

DAWソフト

ABLETON

Live

## アイデアを素早く形にするための操作系と 多彩なアプローチが行えるツール群



問 ハイ・リゾリューション URL [www.h-resolution.com/](http://www.h-resolution.com/)

### 《動作環境》

- \* Mac: OS X 10.11.6以降、INTEL Core 2 Duo プロセッサ (Core i5以上を推奨)、VST/AUプラグイン対応
- \* Windows: Windows 7/8/10、64ビットのINTELもしくはAMDマルチコア・プロセッサ(Core i5以上を推奨)、VSTプラグイン対応
- \* 4GBのRAM(8GB以上を推奨)、約70GB(Live 10 Suite)/約10GB(Live 10 Standard)/約5GB(Live 10 Intro)のディスク空き容量

### 《製品概要》



▲ Live10 Suite

▲ Live10 Standard

▲ Live10 Intro

オーディオ/MIDIのレコーディングやクリップをタイムライン上に並べての曲作りが行える“アレンジメントビュー”と、クリップのループ再生/合奏によってさまざまな音の組み合わせを試せる“セッションビュー”から成るMac/Windows用DAW。2018年2月に発売のバージョン10にはLive 10 Suite(89,630円前後)、Live 10 Standard(55,370円前後)、Live 10 Intro(13,704円前後)の3グレードが用意されています(いずれもオープン・プライス:市場予想価格)。共通の新機能は“Capture”。MIDIトラックがレコーディング状態でないときにも、外部キーボードなどからの演奏情報を記録しておけるものです。SuiteとStandardにはドラム用の新たなエフェクト、Drum Bussがスタンバイ。ひずみやダイナミクスなどが統合されています。Suiteにはさらなるデバイスが加わり、ウェーブテーブル・シンセのWavetableやディレイのEcho、ギター用ひずみエフェクトPedal、モジュレーションのかかり具合を柔軟に変えられるShaperなどのツールがそろいます。



K (uchuu.) が語る

# Liveの ココがすごい!

Text by K

4人組バンド、uchuu. (うちゅう.)のボーカル/ギター/ピアノ/プログラマーとして、ほぼすべての楽曲制作。ライブ活動を展開しながら、レコーディングやミックスにおけるエンジニアリングまで行う。

Photo Takeshi Asano

## 直感的/視覚的に操作可能

Liveは一般的なDAWとは少し異なる仕様で、大きく2つの画面から構成されています。1つは、オーディオ/MIDIのファイルをクリップと呼ばれる箱に入れてループ再生/合奏などを行う“セッションビュー”。もう1つは、時間軸を基本とする“アレンジメントビュー”です。僕は後者を使うことが多く、直感的/視覚的に使えるところが気に入っています。特にドラッグ&ドロップ主体の操作は出色。オーディオ・ファイルやデバイス(プラグイン)のロード、ロードしたデバイスやクリップの移動/コピーなどが、すべてドラッグ&ドロップ主体で行えるのです。

画面下部には、デバイスの設定を常時表示しておくことが可能。これにより、画面を切り替えることなくパラメーターを調整できます。また、アレンジメントビューではパラメーターに触れるとオートメーション・カーブがトラック上に出現するため、すぐにオートメーションを描けます。“こうしたい!”というイメージを鮮度の高い状態で実現できるわけです。

トラックにオーディオを並べた際、クリップの始まりやつなぎ目に自動でフェード(クリップ同

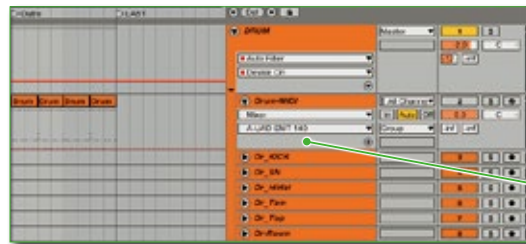
士をスムーズにつなげるための音量調整)を設定してくれるのも便利。制作時に面倒な作業は、Liveが大抵オートで済ませてくれます。“ちょっとテンポが遅いかな?”なんてときは、画面左上のBPMカウンターですぐにテンポを変更可能。しかも、オーディオを含むすべてのトラックのピッチはそのままに、テンポだけを変えられるのです。こういったことがデフォルトの状態で行われるのは大きいですね!

## 神経質にならずに作曲を進められる

さて制作中にトラックが増えてくると、マスター・チャンネルがオーバー・レベルになって赤く光ってしまいがちです。そのたびに音量調整などをしていると、作曲がいつの間にかミキシングになっていた……なんてことが、クリエイターの方にはあると思います。しかしLive 9はミキサーのヘッドルームに余裕があるからか、ひずみにくい印象。もちろん最終的にはオーバー・レベルしないよう調整しますが、この“ひずみにくさ”が直感的に作り進めていく僕にとってはすごく便利なんです。2018年2月にリリースされるバージョン10では、さらなる音質向上とアップデートに期待です!

## K (uchuu.)の お気に入り機能

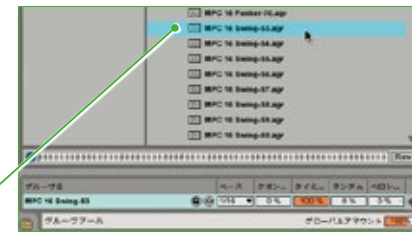
### 1 グループトラック



例えばドラム・トラックを作る際、バス・チャンネルを用意してキックやスネア、ハイハットなどの各パーツをまとめて処理するのは常とう手段。しかし各パーツの出力を一つ一つバスに設定するのは、手間がかかるものです。そこでグループトラックが便利。操作は、**まとめたいトラックを選んで“command(Mac)/Cntrl(Windows)+G”!** たったこれだけで、複数のトラックをまとめてくれます。またアレンジメントビュー上で、1つのグループとして表示することも、グループの中身を一覧表示することも可能。トラック数が増えたときにアレンジメントビューをすっきりさせるのにも、この機能は便利です!

グリッドに沿って打ち込んだMIDIデータにグループ(ノリ)を与えるための機能。Liveには、ノットの発音タイミングなどを変えられる“グループプリセット”が収録されているので、それを使います。グリッドにぴったり打ち込むと表情の無いフレーズに聴こえますが、この機能を用いると、すぐに豊かな表現へと変身。僕はドラムを打ち込むとき、クオンタイズをかけたMIDIコントローラーで入力して、人間的なペロシティのバラつきを生かしています。そして打ち込み後に、“MPC 16 Swing-53”というグループプリセットをロード。最高に踊れるドラム・グループになりますので、お試しあれ!

### 2 グループス機能



### 3 MIDIスライス機能

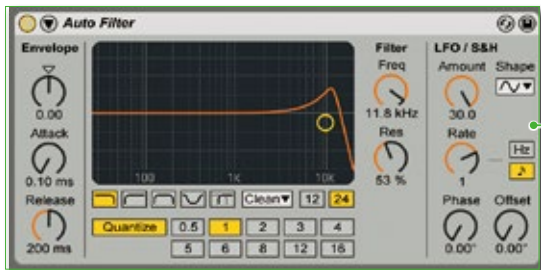


任意のオーディオ・ファイルを指定の単位(例えば“4分音符刻み”)などで切り刻み、サンプラーに自動アサインできる機能。元の音を分解して順番を入れ替えることもできるため、チョップ・フレーズの作成などに便利です。僕はサンプラーの前に標準搭載のMIDIエフェクト、Randomをセットし、偶発的なフレーズを作ることもあります。

K (uchuu,) オススメの

## 標準搭載プラグイン

## フィルター Auto Filter



Liveでは、標準搭載されているプラグインのことを“デバイス”と呼びます。このAuto Filterは、マルチモードのフィルター・デバイス。気持ち良く効いてくれるので、一度使うと病み付きになってしまうはず。僕はレゾナンスを53%に設定し、カットオフ周波数をMIDIコントローラーのツマミにアサインしてグリグリと回しながら使っています。

## オート・パン Auto Pan

その名の通りオート・パンです。設定したタイミングで、サウンドを自動的に左右へ振ってくれます。僕は上記のAuto Filterと組み合わせることで使うこともしばしば。その際は、Auto FilterのLFOとパンニングのタイミングを同じにし、あたかもリンスナーの周囲をぐるぐる回ると回るようなサウンドを作っています。簡単にできますよ！

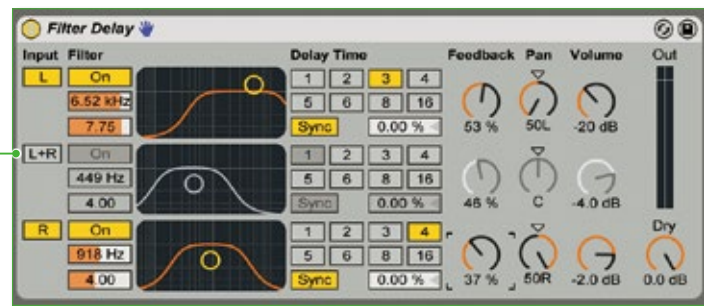


## レコード・ストップ・シミュレーター Pitch Drop



ソフトウェアの音楽制作ツールを開発するためのプラットフォーム、Max for Liveにて生み出されたエフェクト。ABLETONのWebサイトで無料配布されており、ターンテーブルの回転数を落とすときに得られるような効果をかけることができます。曲の終わり、またはセクションが切り替わるタイミングなどで使用すれば、一気に雰囲気を変えられます。uchuu,の楽曲「am2:35」でも使っているので、よろしかったら聴いてみてください。

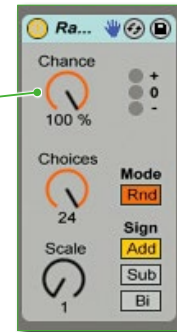
## フィルター+ディレイ Filter Delay



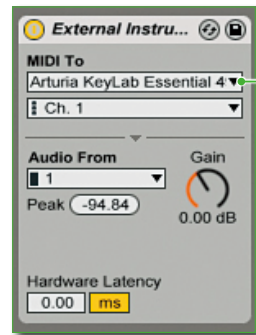
名称に忠実なエフェクトで、フィルターとディレイを組み合わせたもの。入力した音声にフィルターをかけてから、ディレイを施すことができます。フィルターをかますことでユニークな空間演出が行える上、入力が“L”“L+R”“R”の3系統に分かれおり、それぞれに独立したディレイをかけられるため、エフェクティブなサウンドを作成可能。とても便利な一品です。

## MIDI ランダマイザー Random

入力したMIDIデータのノートのピッチをランダムに変化させ、出力するMIDIエフェクトです。あるMIDIデータをループ再生し、出音を録り続ければ、“今の最高！”という瞬間に出会えるはず。自分の想像を超えるような、面白いフレーズ作りが可能です。Randomで作ったフレーズは、僕のバンドuchuu,の「Freedom」でも聴くことができます。



## ユーティリティ External Instruments



外部のハードウェア音源をプラグイン・シンセのように扱うためのツール。これがあればハードウェア・シンセなどをLiveのミキサーに立ち上げられる上、エフェクトをかけることもできるので、とても便利です。uchuu,の楽曲「Magic」では、このExternal Instrumentsを介してKORG ARP Odyssey Moduleを鳴らし、本ちゃん録音のベース・サウンドにしました。